

# 若者の消費者教育 ～特定非営利活動法人スマセレの活動を通じて～

特定非営利活動法人スマセレ 会長理事 田中喜陽

「特定非営利活動法人スマセレ」は、「兵庫県くらしのヤングクリエイター」として活動していた学生が2016年に設立した学生団体から活動を継続する兵庫県のNPO団体です。会長理事の田中喜陽氏に、若者の消費者教育についてお話を伺いました。

## ■ 「消費者教育は面白い」

消費者教育というと何か難しいイメージがあるかもしれません。私は自分が学生の頃から10年以上、3000人以上の学生さんと関わって活動を続けてきましたが、最初から『消費者教育をやりたい』という活動に参加してくる学生さんはほとんどおらず、活動の説明を通して興味を持ったのでとりあえずとか、就活のときに何か話することが欲しいからなどの理由で活動に参加する学生さんがほとんどです。

そもそも、消費ということを考える機会がなかなかなくて、自分の消費が社会とどのようにつながっているかも目に見えにくいから仕方がないところもあるでしょう。

しかし、大人になるにつれて、一人暮らしをしたり、高い買い物をしたり、就職活動をしたりすることで、自分が社会とつながっていると感じる機会が増え、消費と社会、そしてその中にいる自分、更にもっと大きな世界を感じられるようになります。そして、それを感じられれば感じるほど消費者教育は面白いと感じられるようになります。

始めるきっかけは些細なものかもしれませんが、就職して社会人になってからも活動を続ける方や、社会人になって数年後に活動に戻ってくる方が不思議なくらいたくさんいます。

## ■ 「4つの消費者」の視点

教育というと何か高尚なことをしているような響きですが、私たち「特定非営利活動法人スマセシ」では、まず自分自身が以下の「4つの消費者」になることを意識してもらっています。

1. 自分、誰かを不幸にしない消費者
2. 誰かが困っていたら助けられる消費者
3. 自分を幸せにできる消費者
4. 誰かを幸せにできる消費者

### 1 自分、誰かを不幸にしない消費者

世の中には溢れんばかりの情報があり、何が本当で何が嘘なのか判断が難しくなっています。その中で、自分で選択する力をつけることが不可欠です。この選択を間違えてしまうと、自分が事件や事故に巻き込まれて、「しまった、だまされた」と後悔をしてしまうだけでなく、友達や大切な人を事件や事故に巻き込んで、被害者だけでなく、加害者になってしまうこともあります。また、多額の借金を抱えてしまい、その結果、自分の夢を実現できないということもありえます。

このように、自分や誰かを不幸にしない消費者になることが最低限必要です。

### 2. 誰かが困っていたら助けられる消費者

困っている人が周りにいたときに、それを見て見ぬふりをするのではなく、適切な相談場所につなげてあげる、被害に関わらず困っている人がいれば助けてあげられる消費者になれば、なおよしです。災害大国の日本においては、災害時における対策なども忘れてはいけないと思います。

### 3. 自分を幸せにできる消費者

人生100年時代、先がどうなるか予想もつかないようなことが次から次へと起きるこの時代に、自分がさらに幸せになるために何ができるかを考えて選択することで、自分自身を幸せにしていける消費者が増えていくと思います。

### 4. 誰かを幸せにできる消費者

自分が幸せになれば、次は自分以外も幸せになる社会はどうしたらいいんだろう、そして世界中に笑顔が溢れるようにするにはどうしたらいいんだろう、と考えて選択することで、誰かを幸せにしていける消費者になっていきます。

このように考えると、最近よく言われるSDGsを実現していくためにも、まずは根本として、自分や誰かを不幸にしないという視点が不可欠かと思えます。

## ■スマセレの活動について

スマセレでは、コロナ禍前は、環境や金融、ライフプラン、食育などいろいろなテーマで、企業の方を講師に迎えてワークショップなどを数多く行っていました。しかし、イベントもなかなかできる雰囲気ではなくなったことや、コロナがきっかけで今までのあたりまえが変わっていき、一方でその結果としてSDGsが浸透したことから、スマセレの活動内容も変わってきて、街頭での消費者啓発の実施や、企業でのSDGs研修や学校での出前授業に力を入れています。



街頭での消費者啓発はクイズ形式で発信することで、「実は周りにこんな人がいます」といった相談や、万が一消費者被害にあったときの相談先として「消費者ホットライン188」の認知度向上に取り組んでいます。コロナの影響で、場所や方法にいろいろ制約を受ける部分が多いのも事実ですが、啓発の準備をすることを通して、メンバーが消費者被害を自分事としてより深く身近なものとして考えられているという副産物があったりもします。

企業研修では、豊かな社会をつくるにあたってSDGsに理解のある会社を増やすために学生さんと一緒に企業研修をしています。研修の準備段階で学生さんがインターンをさせていただき、そこでの気づきを研修内容に活かすことを通じて、若い人の視点とSDGsを企業の経営に活かしていただいています。また、研修を受けるのは難しいという社会人の方向けにはオープンでのイベントも実施しています。

学校での出前授業も最近はSDGs関連の依頼が多くはなっていますが、その中でも先ほどの「4つの消費者」にこだわって説明をしています。

また、コロナ前から行っていた企業とのワークショップやセミナーなども、引き続きオンラインで行っていますが、昔のように学生さんなら誰でも参加できるというイベントではなく、最近は会員向けのものが主になっています。

## ■最後に

ようやくコロナもおさまる気配を見せつつあり、また社会も変わっていくかと思いますが、社会が常に変わるからこそ、トラブルも常に変わってきます。そのなかで、消費者一人一人の意識も常に変わっているということをしっかり意識しながら、今後も活動をしていきたいと思っています。

